

令和4年度 第3回南アルプス IC 周辺高度活用計画検討委員会
議事録（要旨）

日 時	令和4年11月7日（月） 14:00～15:45	場 所	市役所本庁3階 大会議室
出席者	<p>委 員：佐藤文昭会長、大山勲副会長、佐々木邦明委員、坂口裕昭委員、 小池直己委員、花輪進委員、野田清紀委員、齊藤陽一委員、手塚美砂子委員、 村松廣義委員、名取春樹委員、佐藤寛委員、中辻伸委員、横山瑞法委員 （欠席）中込卓也委員</p> <p>事務局：南アルプス IC 新産業拠点整備室 野田剛理事、中込光司主幹、 金丸周平主査 （欠席）南アルプス市総合政策部 櫻本竜哉部長</p> <p>山梨総合研究所：廣瀬友幸主任研究員</p>		
<p>次第</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 会長あいさつ 3 議 事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 地権者要望書について (2) 市民ワークショップについて (3) 目指すべき姿と方向性について 4 閉会 <p><以下、議事録>（議長：佐藤会長）</p> <p>議題（1）地権者要望書について 地権者代表より「地権者要望」について説明。 「市への要望書について、全員ではないが地権者の署名をいただき、市へ提出した。趣旨としては、十五所から十日市場にかけては、扇状地であることから幾度も水害があり、いい土地と石が多く含まれた土地が混雑している。現状、遊休農地の増加や、農業従事者の高齢化、後継者不足もあり、これからの市の発展のために、開発により有効活用いただきたく、要望書を提出した。」</p> <p>議題（2）市民ワークショップについて</p> <p>議題（3）目指すべき姿と方向性について 一括して、事務局より資料「第3回 南アルプス IC 周辺高度活用計画検討委員会資料」にて説明。</p> <p>【各委員の主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(P.12) 豊かさの要素を5つ挙げ、時計回りに矢印で繋がっているが、別方向への矢印もある 			

のではないか。

- ・(P13) 課題を挙げているが、これまでに出来てるところと出来ていないところの濃淡がある。問題と課題が混在している。例として挙げているものに妥当性があるのか。
- ・20年先を考えた時、無秩序の開発をどう抑えるか、そのために私たちが目指している姿を企業に示す必要がある。具体的なことは無理だと思う。
- ・開発の意向について、農業委員会とも情報を共有すべきである。
- ・水道や下水が整備されていない。予算を上手く振り分けた方がいい。
- ・一部だけ農地が残った場合、農業用管路等が使えなくなる恐れがあり、散在した農地での営農は困難となる。
- ・虫食い開発になり、一部の土地が使えなくなりたいようにしたい。そのために何らかの制限を被せる必要がある。ICの西側と東側の開発の考え方・枠組みを決めて、縛りについて話をしてもらうことだと思う。IC周辺にあったらいいなを考えて、それらを出来る・出来ないことに整理し、ブロックごとに集約する。また、持続性も大事である。孫の代まで続くものでなければならない。そのためには、核がある中で、何回も改造、脱皮をすることが必要である。
- ・扇状地の特性を活かしながら、時代のニーズに対応して変化してきた。IC周辺は観光としてキーのエリアになる。景観の楽しみだけでなく、様々なものが観光的資源になり、高度化した情報処理によって今まで見たことが無いものが見えている。それをメディアなどにより、様々な人が往来する形になると思っている。
- ・無秩序に開発された風景は見たくない。市の象徴である山々などの自然に置き換わって、コストコが市の象徴的な出来事として進んでしまうことに、危機感を持っている人が一定数いる。
- ・面積が広く、長期間かかる中で、未来に繋がるような、実効性のあるものにすべき。
- ・人口を増やすために、20~40代の女性が働けるかが重要である。その層の雇用が生まれる企業に来てほしい。子育てがしやすい地域のため、好循環が生まれる。
- ・ヒカレヤマナシで直売所が予定され、すでに道の駅白根に直売所がある。棲み分けをどのようにしていくのか。
- ・普通に開発したら、チェーン店と倉庫が建つことを容易に想像できる。今あるものといい連携を図れる開発が進んでほしい。
- ・すでに市民は幸せな生活を送っており、リソースがあるわけである。しかし、それらがあまり計画に結びついていない。まちの玄関口に、いいところを集約させ、南アルプス市がどのような所や成り立ちかがわかる拠点とする。そのテーマを決めるのが、ワークショップで行った広域のいいところを見つける役割である。豊かさは抽象的であり、目指すべき姿に記載された、人・経済・社会が循環することは、フレームの視点に過ぎない。全体最適化を図るための具体的なテーマを設定すべき。その後、テーマに沿った形が可能か、ICからどのように波及させていくのか、モビリティやデータ活用の検討、収益を生み出す機会を検討していく流れだと思う。それらを考える前提として、農業か、開発かの問題ではなく、農業をすることと、テーマにすることは、違う話である。農業をテーマにした開発もある。

- ・計画の出口が「参入企業にアピール」とあるが、企業をこちらが判別するスタンスでいくべき。選別をしないなら虫食いの開発が起きる。ワークショップ結果を見ると、「自然と農業」というテーマが如実現れている。農業をテーマにした場合、例えば、農業に適した地域では農業を行う。従来通り、農産物を農協に卸すだけでなく、体験農園や新種開発の実験農園があってもいい。農業にもエネルギーが必要であるため、新エネルギーの開発のテストマーケティングの場とすることも考えられる。新品種を考える研究施設や農業大学のサテライト、パティシエの専門学校、IC周辺での食の提供、企業の研修ツアー用の宿泊施設を作り、企業が農地購入による研修の場、そこを維持管理するビジネス、教育に利用することも考えられる。ミクロ視点での交通問題があれば、電動キックボードで棚田や道の駅に行く拠点となることもありえる。それを MaaS として、データ化や自動化により新しい移動もモデルを作る。というような最終イメージをしている。
- ・IC周辺の土地利用に関して、農業か開発かの二者択一でないことに共感している。事例として、週3日工場勤務、週2日農業という勤務ができたらしい。山梨にはフードバレー構想もあり、農業の専門学校が山梨にはすでにあるため農業をテーマにすることは、非常に親和性が良い。
- ・南アルプス市と外部を繋ぐ拠点になり得るということは間違いない。また、山や川、そういった自然は変わらない。それらをどのように活かしていけるか。企業も優秀な人に働いてもらいたい。そのような方のライフサイクルに合わせるようなイメージ作りが必要である。地域の農業や自然、観光などの重要なところをアピールしつつ、企業が理念に共感する形で、働いていることをアピールポイントとすることも有効である。
- ・カーボンニュートラルやモビリティも考えていく必要がある。車に頼らない生活も重要になってくるのではないか。それらを強めにアピールする場合のテーマ設定が必要になる。
- ・非常に立地が良く、流通の倉庫や工業団地、製造業などが来る可能性がある。一方、地域への波及の点からは農業や自然という今ある資源を活かした新産業を創出するイメージが必要。社会実験的取り組みも考えながら、10年、20年かけて少しずつ作っていくことが大事である。本地域は豊かな農村地域であり、兼業で豊かな生活をしている。このような良いライフスタイルをアピールすべき。そのような形でいいのか、委員の意見を出してもらいたい。
- ・南アルプス市は、農商工会があった方が良くと思う。六次産業化のコンパクトシティを目指すべきではないか。
- ・いいところとして、「市民活動・人」がある。南アルプス市には市民活動センターがあって、相当な人々が多様な活動をしており、非常に強みである。これらを巻き込むのも面白い。
- ・企業に来てもらうというスタンスに違和感がある。公民連携で新しいことをしていく気概も併せて情報発信できればいい。

以上